



第1回牧之原市新しい学校づくり検討会  
未来の子どもたちのための新しい学校  
づくり計画と新しい学校づくりの検討

令和4年10月21日

牧之原市教育文化部学校再編推進室



# はじめに



みんなで新しい  
学校をつくろう!

# 9年間で学び・育つ義務教育学校

- 平成28年の学校教育法の改正で設置することができるようになった新しい種類の学校で、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う
- 1人の校長のもと、一つの教職員集団が、同じ教育方針で9年間子どもを育む

## 子どもたちへのメリット

- 異学年交流がしやすく、上級生への憧れや敬い、下級生への思いやりの心などが育まれる。
- 生活のきまりや学習スタイルが9年間統一されることで、安心と期待を持って学校生活が送れる。
- 専門性を持った教員が授業を行うことで、分かりやすく、つまずきにも丁寧な指導が受けられ、学力向上につながる

## 教職員へのメリット

- 個の学びや育ちを全教員で共有でき、指導しやすい。
- 小学校教員と中学校教員の良さが交わることで授業力の向上が図れる。

# 榛原地域・相良地域に1校ずつ つくります



※牧之原市菊川市学校組合立牧之原小・中学校は今回の再編の対象外とする。

# 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画～学校再編計画～（令和4年3月策定）

- 対象 市立小学校8校、市立中学校2校



## ハードのこと

- ・目指す学校像
- ・学校区
- ・学校の場所（エリア）
- ・開校までのスケジュール 等



新しい学校  
づくりに必要  
なソフト

# 一番大切にしたい視点

## 子どもを主体に

- 学校にはいろいろ大切にしたいことがあるけれど、一番大切にしたいことは「子どもたちの学びや育ち」
- 子どもたちにとって何が最良の視点

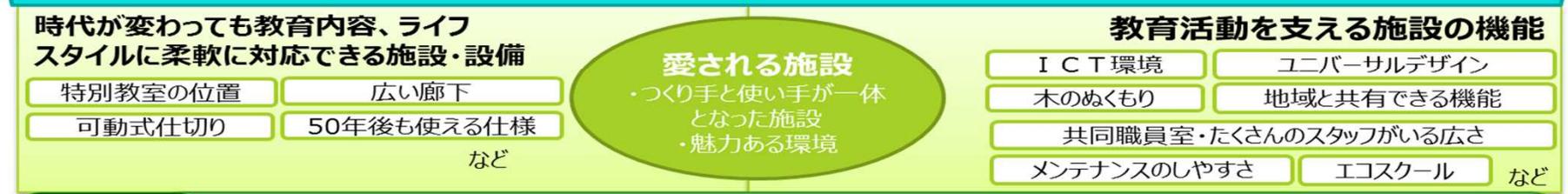
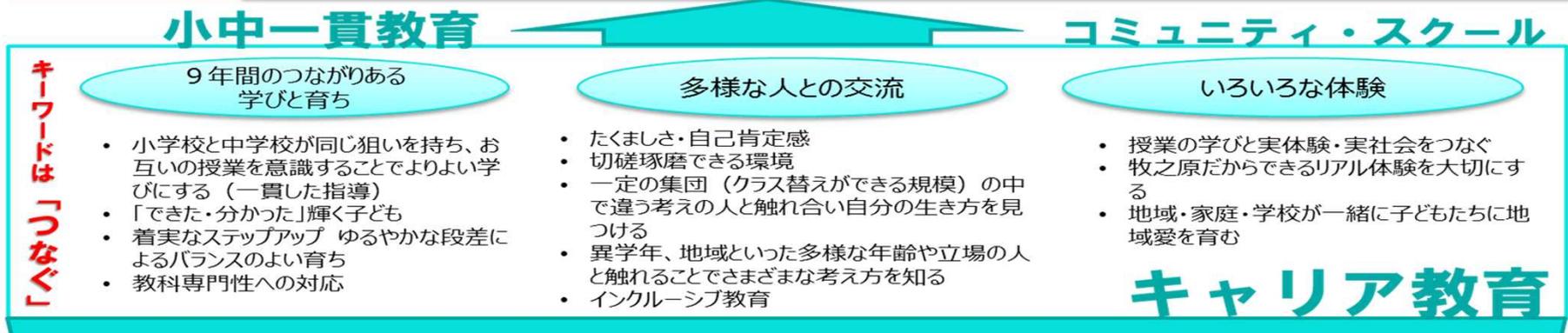
# 目指す学校像 「みんなの学校」

**目指す学校像 「みんなの学校」**

- 子どもたちが「学校が楽しい！」と思える子ども主体の学校
- みんなで子どもを育てる「共育」の学校

①学校、地域、家庭のみんなで子どもを育てる、関わるみんなも育つ ②みんなが行きたくなる、みんなが活動できる

**育みたい力 次代を切り拓く力 = 人間力 (主体性・社会性・気付く力・コミュニケーション力等)**



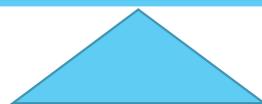
**土台・基礎となるもの**

**安心・安全**

- 災害に強い（場所と建物）
- 適正な管理ができる規模と質（限られた人とお金・後世に不安を残さない）
- 通学も安心（通学路と通学手段） ● 見える学校（目が届く・たくさんの目で見る）
- 保健衛生環境が整っている（感染症対策がしやすい）

# 次代を切り拓く力とは？

- 社会がどのように変わっても主体的にたくましく生き抜くことができる  
人間力（主体性・コミュニケーション力等）
- 社会の変化に適応するだけでなく、新たな価値を創造し、よりよい将来を創り出すことができる



- 年代や価値観、能力等が違うさまざまな多くの人と出会う・触れ合う
- 授業で学んだことを生活や社会と結びつけて考えたり、生かしたり、チャレンジしたりする

牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針（平成31年3月策定）より

# 学校の規模



- 長期的に単学級にならない人数と規模を保障できるように、開校時の規模は、1学年3学級以上を基本とする

## 一定規模の集団の中で

切磋琢磨して、自分の可能性を伸ばす

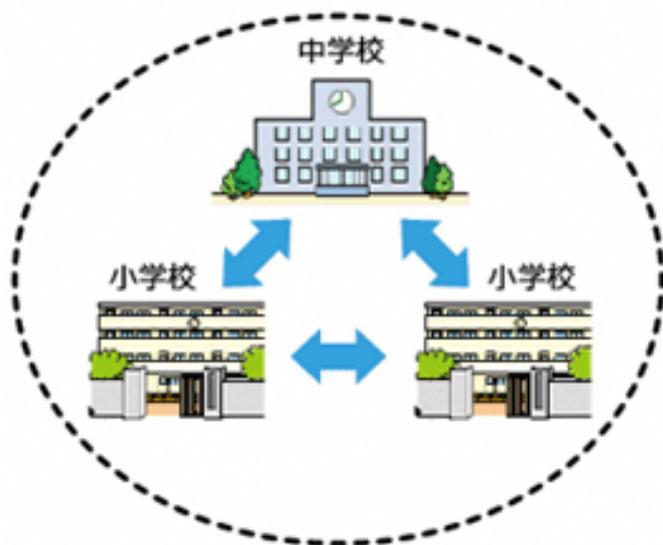
- 気付く
- 一緒に考える
- 理解し合う
- 自分らしい生き方を見つける

## クラス替えができる

より多くの子どもたちと触れ合う機会を得る

# 施設は一体型

施設分離型小中一貫校



施設一体型

小学校・中学校



こちら!

- 小学校と中学校が同じ敷地にある施設を施設一体型といいます。
- 小中一貫教育の効果は、施設一体型がもっとも高いという国の調査結果があります。

# 学校の場所

津波浸水想定区域外に安全な学校施設をつくるため、次のエリアを校地として選定します。

1. 榛原地域: 榛原中学校からぐりんぱる周辺
2. 相良地域: 相良総合センター「い〜ら」から相良総合グラウンド周辺

## 次の条件に合い、総事業費が抑えられる場所

1. 津波浸水想定区域外で、災害に強い施設が建てられること。
2. 児童生徒の安全面を考慮するとともに、できるだけ多くの児童生徒が、徒歩または自転車で通うことができる場所とすること。
3. 学校周辺の道路やインフラ等の状況を踏まえ、関係部署と連携を図り、都市計画等の他計画との融合を図って校地を選定すること。

# 開校時期



令和12年度  
(2030年度)

を目指す

※開校は2校同時でない場合がある

# 学校の現状

## 校舎の状況

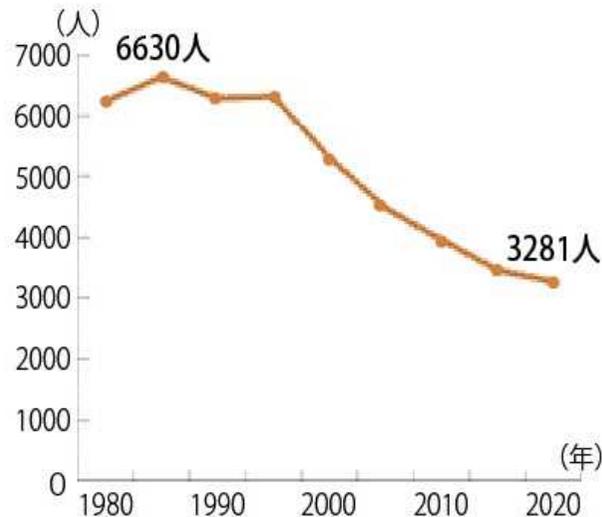
ほとんどの校舎が、建築から40年以上経過し、更新時期を迎えています。津波浸水想定区域に立地している学校もあります。

学校名	築年数	学校名	築年数
相良小	49	細江小	52
菅山小	41	勝間田小	58
萩間小	57	坂部小	60
地頭方小	57	相良中	47
牧之原小	52	牧之原中	44
川崎小	54	榛原中	50

\*御前崎中は、御前崎市が管理市のため掲載していません。

## 児童生徒数の推移

児童生徒数は、現在、ピーク時の約半数に減少しています。また、現在の出生数からも、今後も減少していくことが予測されます。



## 学校数と規模

本市の子どもたちが通う学校は、全部で13校です。そのうちの3校は、学校組合として他市と一緒に運営しています。

### 小学校

- ▶相良 (3) ▶菅山 (1)
- ▶萩間 (1) ▶地頭方 (1)
- ▶川崎 (2) ▶細江 (2)
- ▶勝間田 (1) ▶坂部 (1)
- ▶牧之原 (1)

### 中学校

- ▶相良 (4) ▶榛原 (5)
- ▶牧之原 (1) ▶御前崎 (4)

\* ( ) 内の数は1学年の平均クラス数。

緑色は学校組合立。

※津波浸水想定区域にある学校は4校

# これまでの流れ

市民参加の機会 119回  
参加人数 4,306人  
意見数 5,403件

時期	検討したもの	主に聞いた（聞く）意見
平成29年度 平成30年度	望ましい教育環境のあり方に関する方針 （次代を切り拓く力・クラス替えできる規模・ 小中一貫教育・学校再編計画の作成等）	意見交換会 「どんな教育環境で子どもを育 てたいか。」
令和元年度 令和2年度	学校再編計画（素案） （目指す学校像・基本方針・規模・学校区・ 場所のエリア等）※学校再編計画策定委員会※	意見交換会・ アンケート等 2校案についての賛否。再編 への意見。
令和3年度	未来の子どもたちのための新しい学校 づくり計画を市として策定	意見交換会・ アンケート等 計画案についての意見
令和4年度～	学校施設整備基本構想・基本計画の検討	

A photograph of a modern school interior. The space is characterized by extensive use of light-colored wood paneling on the walls and ceiling. On the left, there is a library area with bookshelves and a staircase. In the center, a group of students is sitting on the floor, engaged in an activity. To the right, there is a table with books and a laptop. The overall atmosphere is bright and open.

# 新しい学校のづくりに 向けて

# 未来の子どもたちのための新しい学校づくり 計画～学校再編計画～における考え方

## ■市の学校として2校共通の考え方

- 目指す学校像「みんなの学校」を実現するために  
必要な5つの基本方針
- そのための具体的なソフト・ハード



# 基本方針 | すべての子どもが主役の学校

すべての子どもにとって、学びやすく活動しやすい教育環境を、子ども主体で考えます。



ソフト

## 9年間のつながりある特色ある学び・きめ細かな指導

- 牧之原市だからできるリアルな体験とオンライン学習のハイブリットな学びのカリキュラム
- 障害、性別、国籍、経済上の理由にかかわらず「共に育つ」教育の充実
- 9年間の切れ目ない支援
- 低学年2人体制での指導
- バイリンガル指導員・学校司書の複数配置
- 相談体制の充実
- 不登校児童生徒の居場所や学習環境の確保



施設

## 子どもたちの居場所となる快適で温かみのある生活空間

- 明るく風通しがよい
- リフレッシュやクールダウンできる場所がある
- 段差解消、エレベーター等の設置
- 図書室の配置と機能の拡充
- 感染症に対応した設備とスペースの確保
- トイレの洋式化・乾式化



## 基本方針2 「次代を切り拓く力」を育む学校

一人一人の可能性を伸ばし、次代を切り拓くために必要な人間力を育むことができる環境をつくります。



### 力をつけるためのプログラムと専門的で個別最適な学び

ソフト

- 次代を切り拓く力を育むためのプログラムで自分の将来を見通して自ら動く子どもに!
- プログラミング的思考、情報活用能力の育成
- 外国語で話す機会の創出 (ICT活用、ALT 複数名常勤)
- 一部教科担任制による専門的な指導
- 少人数指導や個に応じた学び



### 学校施設全体が学びの場

施設

- 1人1台端末に対応したゆとりある教室
- 校内どこでもICT機器が活用できるネットワーク環境
- 発達段階に対応した空間、機能
- 活動に応じて空間を選べる配置、機能等



## 基本方針3

# 安全・安心な学校

児童・生徒、教職員等が安心して学校生活を送れるよう、市民にとって最も不安な自然災害である津波の浸水想定区域外に、自然災害に強い学校施設をつくります。



ソフト

### 危機管理意識の育成・通学方法

- ・ 防災教育の充実
- ・ 登下校の見守りの充実
- ・ 通学方法は、子どもと保護者の負担を少なくすることを基本に協議



### 安全・安心の確保

- ・ 構造的な安全性確保と防犯、防災機能の充実
- ・ 長期的に管理しやすい施設
- ・ 通学環境の整備
- ・ 脱炭素社会に向けた施設整備

## 基本方針4 地域の未来を担う子どもを育む学校

地域の人に関わり、地域の資源や行事を通じて、子どもたちが**地域愛**を育むことができ、学校が**みんなの居場所**となるようにします。



### 地域愛を育む・生涯学習充実

- 新しい学校のコミュニティ・スクールの設置と充実
- 地域活動と交流の場づくり

ソフト



施設

### 地域や社会との共創空間

- 多様な人が執務・作業するスペース
- コミュニケーションが取れるスペース
- 学校施設の高機能化・多機能化



# 基本方針5 働きやすく充実した指導ができる学校

教職員が働きやすく、充実した指導ができる組織体制と施設環境を整備します。



## 働きやすく、指導しやすい

- ・ チャレンジでき、やりがいを実感できる環境
- ・ 専門スタッフの配置とICT活用による業務の効率化
- ・ 研修や学校間の交流の充実
- ・ 9年間の組織づくりと教職員組織のあり方

ソフト



## 効果的・創造的な執務環境

- ・ 執務環境にふさわしい機能
- ・ 十分な執務スペースの確保
- ・ ICT等が活用しやすい環境
- ・ 打ち合わせ等ができる共有スペース

施設

# 新しい学校づくり検討会で検討すること

## 学校施設整備基本構想

施設全体の基本的な考え方

- 新しい学校づくり計画は2校共通の考え方を記載しているため、その内容を基本とする
- 第1回検討会での意見を反映して、各校の独自性を追加する

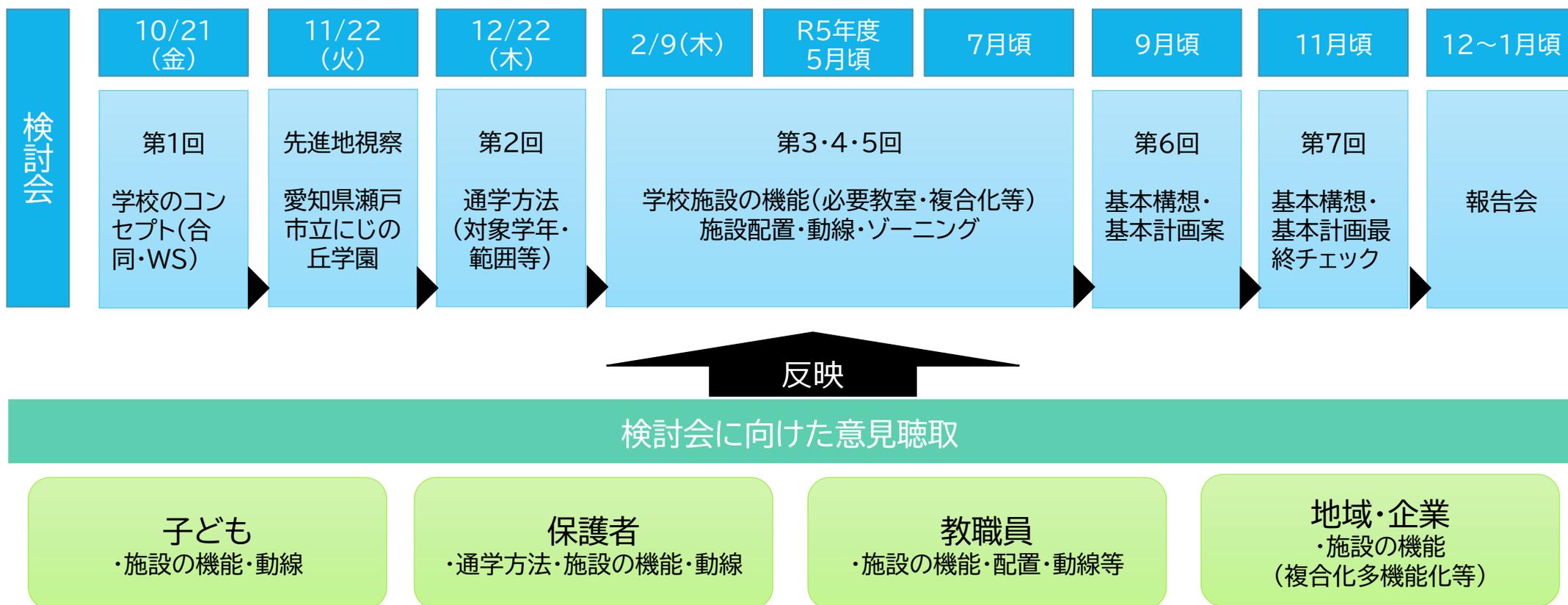
## 学校施設整備基本計画

校舎・体育館・グラウンド等に関する個別の考え方や配置・動線の考え方等

- 市がたたき台を提示し、委員に意見をもらい修正する
- たたき台は、検討会の前に関係者から聴取した意見を反映して作成する

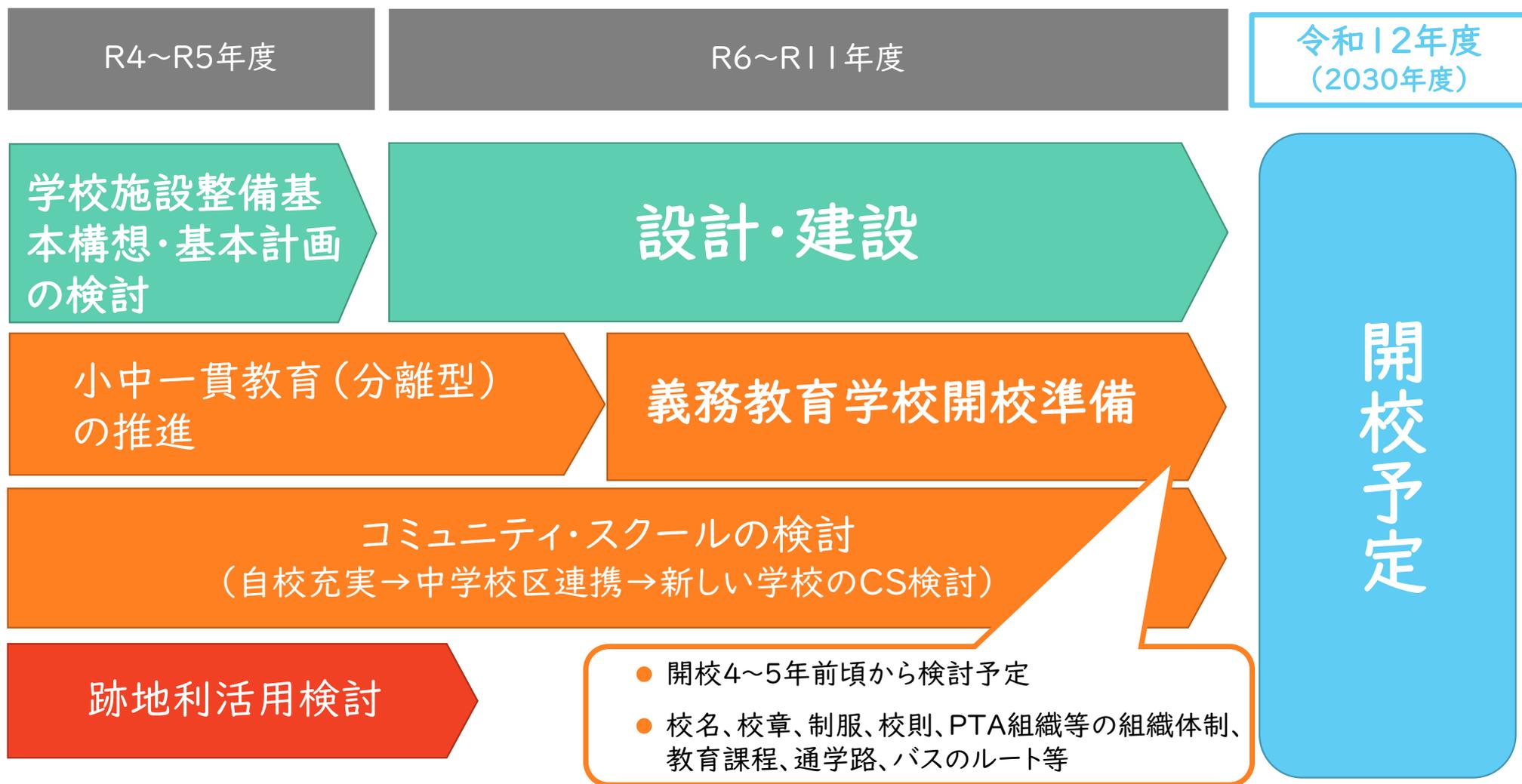
- **学校のコンセプト（地域性・独自性を入れる） → 基本構想**
- **通学方法（対象学年、範囲の考え方）**
- **施設の機能（体育館や教室数等の具体検討、複合化・多機能化）**
- **施設配置と動線**

# 新しい学校づくり検討会の進め方（案）



※ 回数や内容は必要に応じて変更する場合があります

# 新しい学校の開校までの全体スケジュール（案）



# 委員のみなさんをお願いしたいこと

学校施設について

それぞれの立場・視点から思いや考え  
を伝える

※学校再編計画の基本方針をベースに!

# 今までの学校と変わることに

- 1～9年生が同じ学校で生活する
- 学校区の範囲
- 通学の範囲



# あなたが新しい 学校で大切に したいことは？

大切にしたいこと・地域性・独自  
性等、思いを入れ込もう